

京島地区まちづくり協議会を核としたまちづくり ～ エリアマネジメント活動 ～



平成 30 年 3 月

京島地区まちづくり協議会
一般財団法人 墨田まちづくり公社 まちづくり課

目次

京島地区エリアマネジメント活動	・・・・・・・・・・	1
京島地区まちづくり協議会の歩み	・・・・・・・・・・	2
賑わいづくり・コミュニティづくり	・・・・・・・・・・	3
安全・安心、快適なまちづくり	・・・・・・・・・・	5
地域のルールづくり	・・・・・・・・・・	13
情報発信	・・・・・・・・・・	14
公共施設・公共空間の整備	・・・・・・・・・・	15

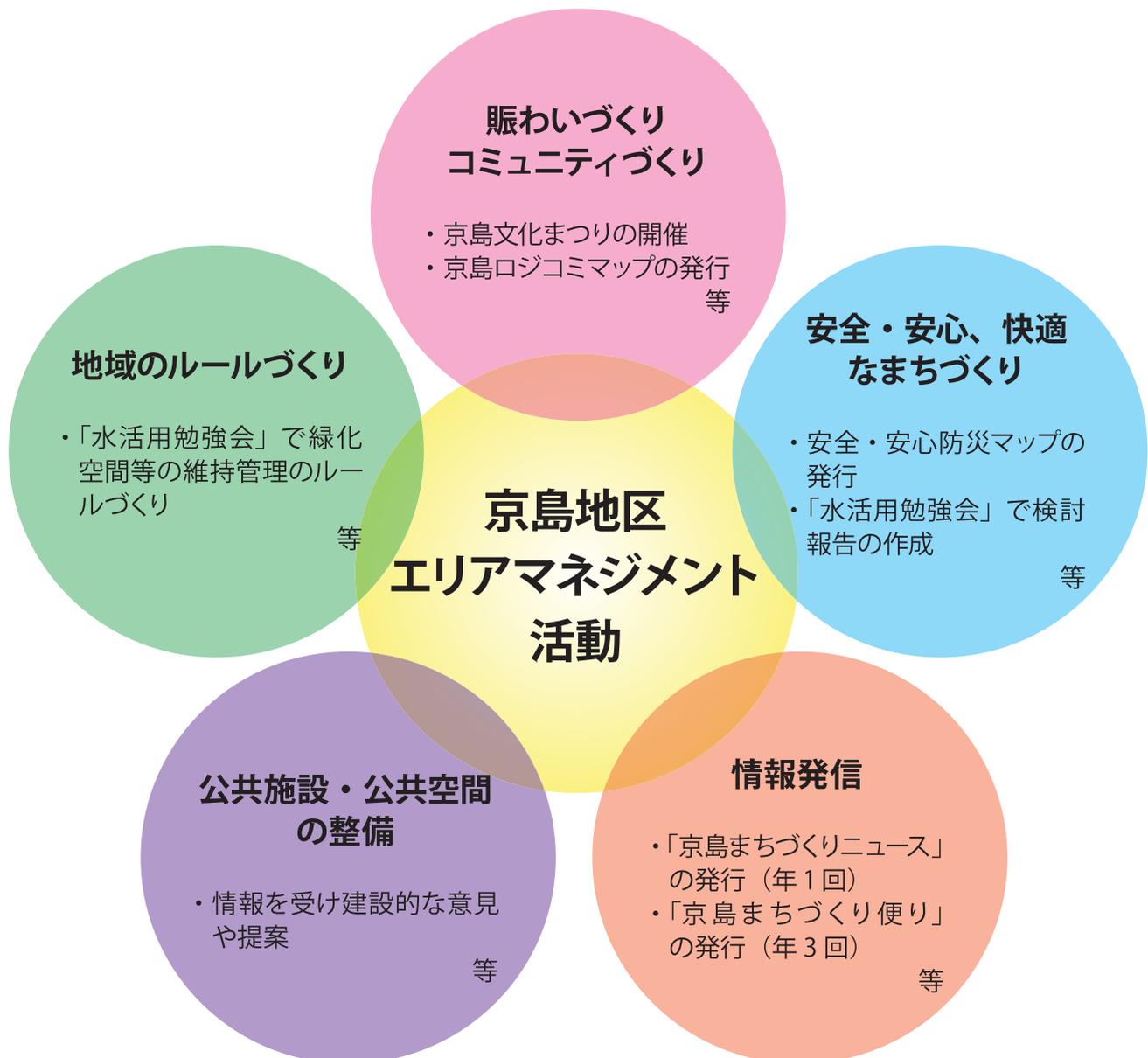
京島地区エリアマネジメント活動

昭和 56 年に地元住民と行政が協働してまちづくりの基本となる「京島地区まちづくり計画（大枠）」を策定し、「京島地区まちづくり協議会」が設立されました。

協議会は今日に至るまで継続して町会の枠を超え、様々なまちづくり活動を実施してきました。このような協議会は全国的にも珍しく、国内のみならず海外からも視察が多くなっています。

エリアマネジメント手法を取り入れた協議会支援

「京島地区まちづくり協議会」の事務局を担っている墨田まちづくり公社まちづくり課は、協議会のまちづくりの熟度の向上に伴い、地域の方々が自ら考え、課題を調整し、責任を持って行動する「エリアマネジメント」の考え方を取り入れた協力・支援を行ってきました。



個性豊かなまちづくりの推進

地域が抱える課題の解決には専門家の力が必要になりますが、加えて様々な考えを持った地域の皆様が情報を共有し、課題解決に向けて協働していくことも必要です。

墨田まちづくり公社まちづくり課は、現地事務所である京島事務所を「まちづくり支援のプラットフォーム（まちづくりの駅）」に位置付け、今後も皆様と共にエリアマネジメント手法により、時代の変化に対応した個性豊かで活力に満ち溢れたまちづくりを推進していきたいと考えています。

京島地区まちづくり協議会の歩み

S 5 5
(1980)

「京島地区まちづくり検討会」発足

昭和53年度に実施された意向調査をきっかけとして、昭和55年6月、地元・東京都・墨田区の三者による「京島地区まちづくり検討会」が発足しました。検討会の熱心な討議の結果、まちづくり計画案を提案するに至りました。

S 5 6
(1981)

「京島地区まちづくり協議会」発足・・・京島まちづくりのはじまり

昭和56年には、まちづくり検討会が発展して、「京島地区まちづくり協議会」が発足しました。初年度は、地元説明会を開催した後、「まちづくり計画の大枠」として合意・決定しました。

また、地元に根付いた活動を行うため、計画部会・商業部会・工業部会を設置し、それぞれの視点から京島のまちづくりへの取り組みを始めました。

H元(1989)～ 京島まつりの開催 H3(1991)～ 京島文化祭の開催

H 4
(1992)

工業部会の後継者グループ「共栄会」発足・・・京島まちづくりの継続に向けて

各専門部会は、それぞれの活動目標に沿って、京島のまちづくりを担う後継者育成を含め、積極的な活動を行ってきました。

平成4年には、工業者の次代を担う後継者グループ「共栄会」が組織されました。

H3(1991)～H13(2001) 京島子供まつりの開催

H 1 2
(2000)

新部会「女性部会」発足・・・多彩なまちづくり活動の進展

平成12年には、多彩な視点からまちづくりを行うため、新たに女性部会が設置されました。

協議会全体では、京島を紹介したロジコミマップの作成や、共栄会によるオリジナル製品の開発など、地区内外に情報等を発信する活動が目立ちました。

H 2 0
(2008)

組織改編「地域活動促進部会」発足・・・新・京島まちづくりのはじまり

平成20年には、工業部会、女性部会を統合した地域活動促進部会が新たに設置されました。京島文化まつりや耐震活動、京島らしさの発信など、テーマをより具体化した専門分科会によって構成され、計画部会、商業部会とともに、京島まちづくりの新たな時代の活動を推進しました。

H22(2010) ロジコミマップ改訂版の発行

H 2 4
(2012)

組織改編「コミュニティ推進委員」発足・・・協力・連携していくまちづくりへ

平成24年には、専門部会や専門分科会を廃止し、7町会や協議会活動の賛同者からコミュニティ推進委員を選出し、協議会全体で協力・連携してまちづくり活動を行っていく体制に変更しました。

H24(2012) 第22回京島文化まつりの開催

H 2 8
(2016)

「水活用勉強会」発足・・・住民自ら発議していくまちづくりへ

平成28年には、協議会委員より「震災時の火災の猛威から、町、建物、命を守るために自前の水源確保の必要性和、震災前後にも多目的に活用できる水源を確保することで町の魅力が一層高まる。」との提案により、「水活用勉強会」が発足しました。

H29(2017) 墨田区へ水活用勉強会検討報告書の提出

賑わいづくり・コミュニティづくり 京島文化まつりの開催・京島ロジコミマップの発行

まちへの愛着を育み、地域の活性化や京島らしいコミュニティ活動として、住民主体で企画・運営している京島文化まつりの開催や、京島を訪れた人に京島の魅力を知ってもらうため「京島ロジコミマップ」の発行等を行っています。

京島文化まつり

今や地元のお祭りとして定着した「京島文化まつり」を住民主体で開催しています。

町会を超えた住民同士の交流と繋がりや、住民の方の作品を展示する作品展、平成25年からは「京島らしさ」をテーマとしフォトコンテストを実施するなど、毎回新たな試みを行っています。

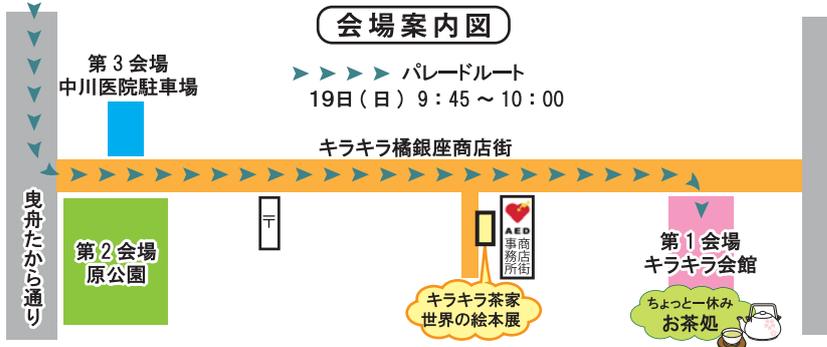
平成29年度 第27回京島文化まつり概要

開催日時：平成29年11月18日（土） 10:00～16:00

19日（日） 10:00～15:00

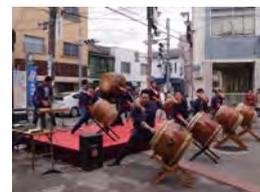
第1会場 キラキラ会館

- 18日（土）
10:00～ 作品展
京島の見どころ大募集!!
ロボットのプログラミング体験
向島警察署防犯コーナー
お茶処
- 11:00～
- 19日（日）
9:45～ パレード&開会セレモニー
10:00～ 作品展
10:30～ 書道教室
10:30～ 白バイ試乗&写真撮影会
11:00～ お茶処



第2会場 原公園

- 19日（日）
10:30～ 模擬店販売開始 **数量限定のため 売切れ次第終了!**
- ◇ステージイベント◇
10:30～ あづま太鼓
10:55～ フォトコンテスト2017表彰式
11:05～ 河内音頭
11:30～ フラダンス
11:55～ 刀法演武
12:15～ 帰ってきたキュービットガールズ
12:35～ ベリーダンス サラ・アミラ
12:50～ 歌謡グループ「ましまる」
13:15～ 文花中学校吹奏楽部



第3会場 中川医院駐車場

- 18日（土）
10:00～ 京島フォトコンテスト2017作品展示
京島のまちづくりパネル展示
- 19日（日）
10:00～ 京島フォトコンテスト2017作品展示
子供向けイベント「宝探しゲーム」
京島のまちづくりパネル展示
京島の見どころ大募集!!



キラキラ橋銀座商店街

- 18日（土）
◇キラキラ茶屋
10:00～ 世界の絵本展
- 19日（日）
◇キラキラ橋銀座商店街休閉店前
10:30～ フリーマーケット
◇キラキラ茶家
10:00～ 世界の絵本展



安全・安心、快適なまちづくり

防災設備整備と安全・安心防災マップの作成（平成 25 年度）

墨田区による初期消火に寄与する消防水利の整備や、避難経路の安全性を高める「アクアサポート事業」において、区は住民と地域の危険箇所の確認や改善点について意見を交換し、新たに簡易消火機材やハンマーなどの救助工具が収納された防災ベンチや行き止り看板等の防災設備が整備されました。

アクアサポート事業取組みの様子



新たに整備された防災設備



救助工具や簡易消火機材が収納された
防災ベンチ

行き止まりを示す注意看板

ソーラー照明灯

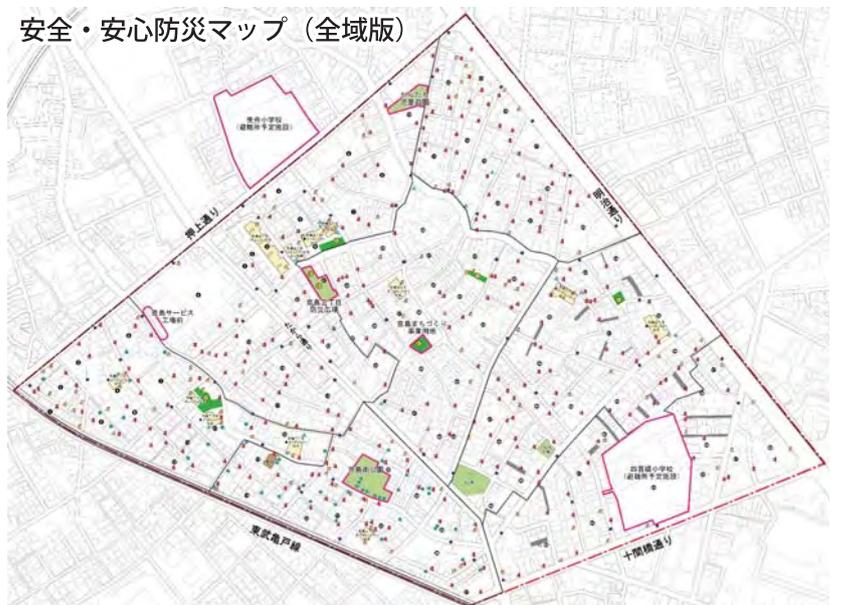
災害用トイレ

安全・安心防災マップの作成

新しく整備された防災ベンチや災害用トイレ等の防災設備や町会や墨田区が設置した消火器、行き止り道路等を記載した「安全・安心防災マップ」を作成し、町会を通じて皆様に配布しました。



安全・安心防災マップ（全域版）



火災時緊急水栓提供宅の確保と

火災時緊急水栓提供宅マップの作成（平成 26 年度）

平成 25 年度に墨田区によって新たに整備された簡易消火機材は、火災時に屋外にある水道水栓又は散水栓に接続し、初期消火を行います。

そこで、簡易消火機材の運用方法についての先進地区である「池袋通り西睦町会（豊島区東池袋）」を視察しました。

視察を受け、京島地区での運用方法について検討し、「火災時緊急水栓提供宅」の募集や目印となる水栓シールの作成・配布などを行いました。

池袋通り西睦町会視察の様子

平成 27 年 1 月 15 日（木）に、簡易消火機材運用の先進地区である「池袋通り西睦町会（豊島区東池袋）」を視察しました。

池袋通り西睦町会は、平成 25 年度に「東京都地域の底力再生事業」助成を受けて簡易消火機材を導入・運用しており、簡易消火機材導入の経緯や配置場所・簡易消火栓用水栓協力宅の募集方法などについて説明を受けるとともに現地見学をしました。



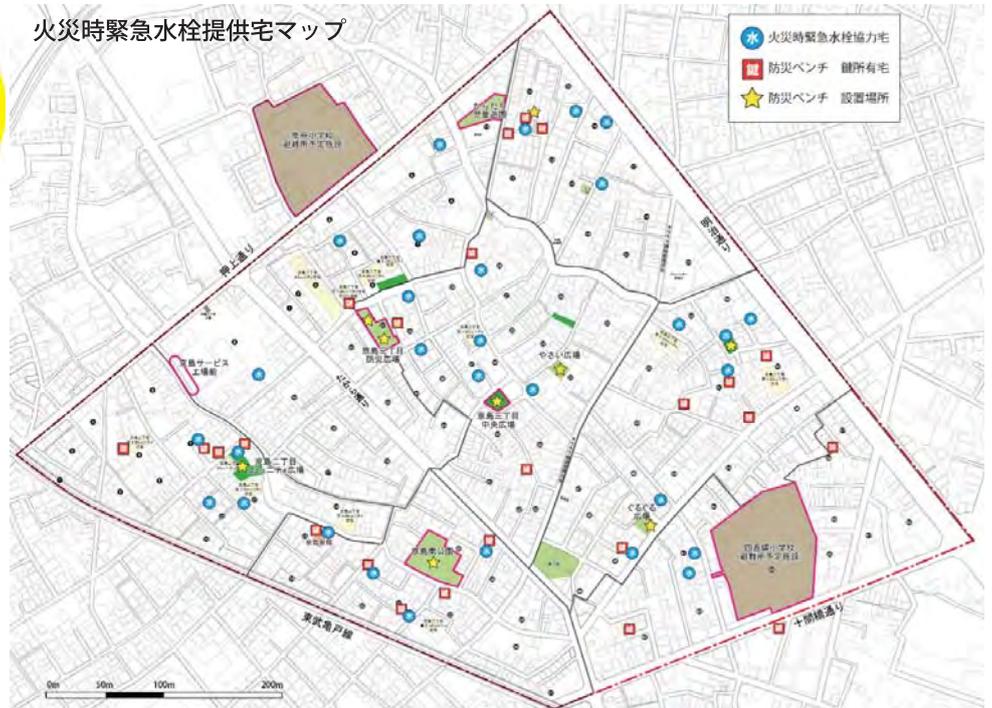
火災時緊急水栓提供宅マップ（全域版）と給水コネクター・目印シール

火災時に水道水栓及び水道水の使用を承諾して頂ける「火災時緊急水栓提供宅」の募集を行い、30 世帯のご協力を得ました。

「火災時緊急水栓提供宅」へは、給水コネクターと目印シールをお配りし設置しました。また、「火災時緊急水栓提供宅マップ」を作成し、町会へ配布しました。



給水コネクターと目印シール



簡易消火資器材の増設と安全・安心防災マップの更新と 水活用勉強会の本格始動に向けた取組み（平成 27 年度）

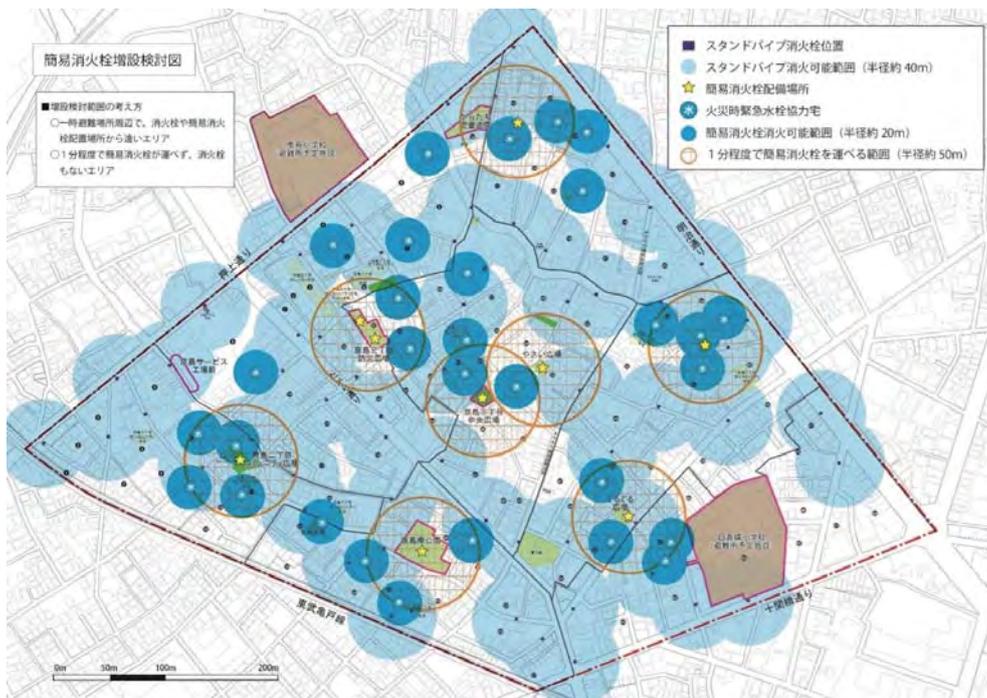
東京都が地域の課題を解決するための取組みに対して助成を行っている「地域の底力再生事業助成」制度を活用し、簡易消火機材を 11 台追加配備しました。これにより、京島地区内に消火可能範囲を踏まえ 21 台の簡易消火機材が配備されることになりました。

追加配備に伴い、平成 25 年度に作成した「安全・安心防災マップ」に、平成 26 年度に作成した「火災時水栓提供宅マップ」と増設した簡易消火機材や火災時緊急水栓提供宅を追記した、平成 27 年度版の「安全・安心防災マップ」を作成し、町会を通じて皆様に配布しました。

また、協議会委員から災害時の水確保に向けた取組みの提案があり、平成 28 年度から本格始動する前に、参考事例として「南池袋まちづくりの会」が実施した防災井戸整備を視察しました。

地域の底力再生助成事業の取組み

事業は「京島南町会」及び「京島文花連合町会」が主体となり、平成 27 年 11 月より各町会役員が集まり、簡易消火機材の配置場所や緊急時水栓提供宅の依頼・募集方法、初期消火訓練の実施内容等を検討し、平成 28 年 1 月に初期消火防災訓練を実施しました。



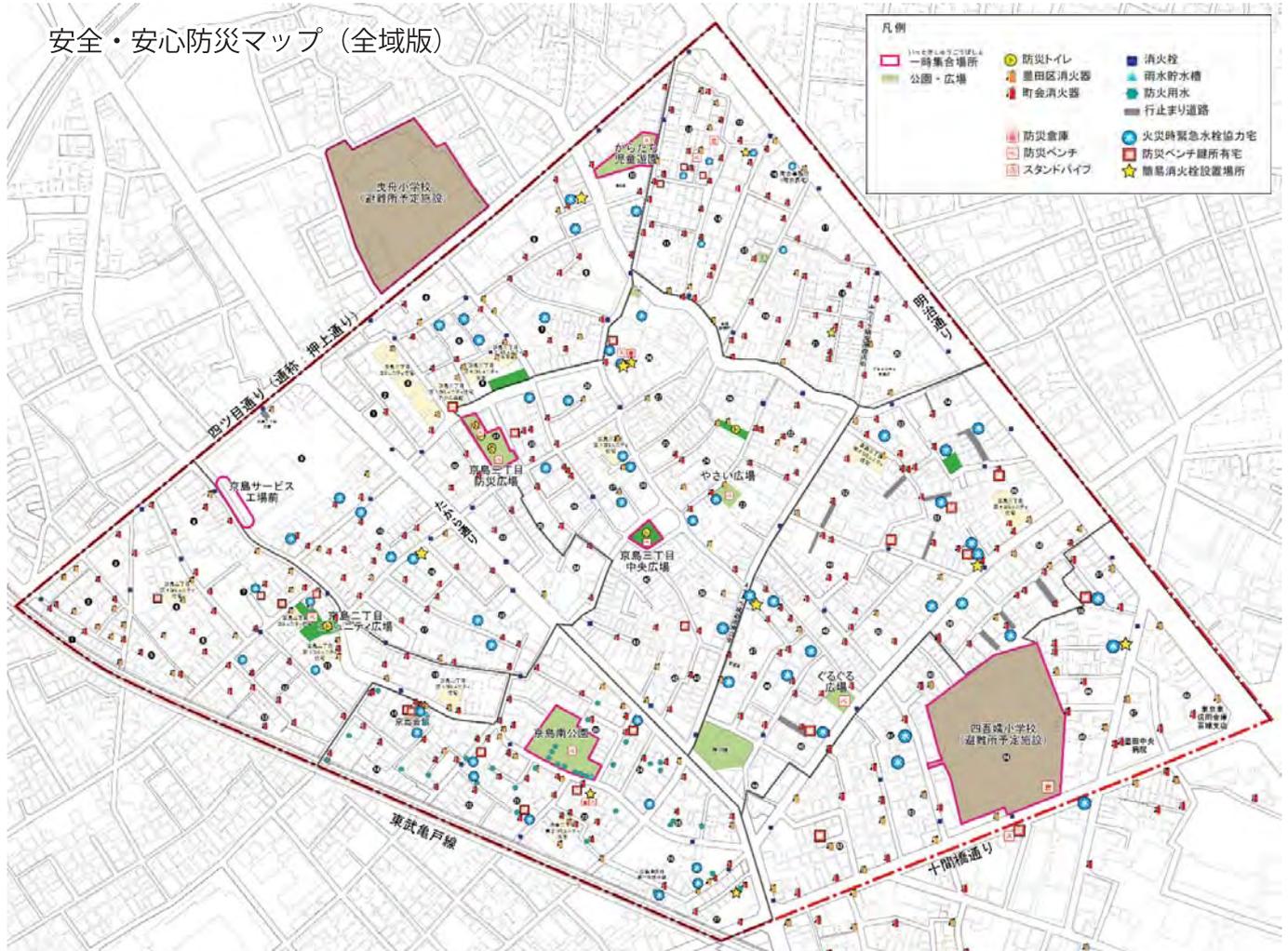
簡易消火機材増設検討図



安全・安心防災マップの更新

「安全・安心防災マップ」は概ね2年毎の更新としており、平成27年度の更新に併せ、平成26年度に作成した「水栓提供宅マップ」を統合し、簡易消火機材や消火器、緊急時水栓提供宅、防災ベンチ鍵所有者宅などを記載した「安全・安心防災マップ」に更新しました。

安全・安心防災マップ（全域版）



南池袋地区まちづくりの会視察

防災井戸整備を含めた京島地区内の災害時や平常時の水景など水活用に関する検討を行う「水活用勉強会」を平成28年度より本格的に検討を始めるにあたり、平成28年3月17日（木）に参考事例として地元組織による防災まちづくりによって防災井戸を整備した「豊島区南池袋地区まちづくりの会」を視察しました。

視察では、これまでのまちづくり活動の内容や防災井戸を整備するに至った経緯などを伺い、路地にある防災井戸を見学しました。



災害時の水確保に向けた検討（平成 28・29 年度）

「京島地区まちづくり協議会」は安全・安心なまちづくりとして、災害時の水確保や平時の京島地区の水景など幅広く検討を行う「水活用勉強会（通称：京島井戸端会議）」を平成 28 年度に立ち上げました。

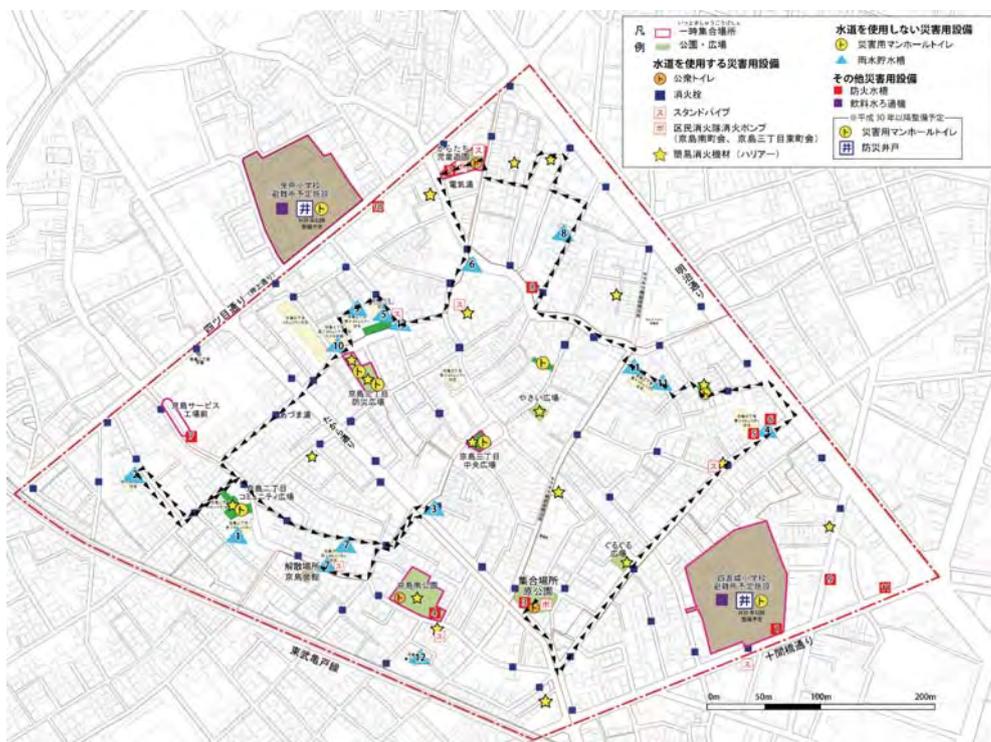
勉強会委員による京島地区内の現地確認や京島井戸端会議（5 回開催）での災害時の水確保に向けた検討、協議会委員を含めた参考事例見学会、密集市街地で発生した糸魚川市駅北大火視察などを行いました。

地区内の雨水貯水槽や消火栓等の現況確認

京島地区内の雨水貯水槽や消火栓等の現状を確認するため、平成 28 年 7 月 21 日（木）にまち歩きを行いました。



現況確認の様子↑
現況確認のルート→



京島井戸端会議での検討

地震発生前、発生直後から時系列において求められる水の水量や水質について検討を重ねました。

災害時の生活用水（洗濯や清掃、トイレ等に使用する水）として東日本大震災や熊本地震等で個人所有の井戸が活用されたことを参考に、京島地区内に用意する水源やすでに整備されている防災設備の管理方法、新たに整備する防災井戸のイメージやアイデア等についても検討しました。

- 第 1 回 平成 28 年 6 月 24 日（金）
- 第 2 回 平成 28 年 9 月 14 日（金）
- 第 3 回 平成 28 年 11 月 24 日（木）
- 第 4 回 平成 29 年 2 月 16 日（木）
- 第 5 回 平成 29 年 4 月 27 日（木）



糸魚川駅北大火視察

平成 29 年 1 月 12 日（木）に、京島地区と同様の密集市街地で発生した「糸魚川市駅北大火（新潟県）」の被災状況を視察しました。

平成 28 年 12 月 22 日（木）に「大型こんろの消し忘れ」が出火原因となり、火の粉が南からの最大瞬間風速 27.2m/s の風によって離れた場所に飛ばされ、屋根の隙間に落ちたこと等で被害が拡大していき、焼損棟数 147 棟（全焼 120 棟 半焼 5 棟 部分焼 22 棟）、焼失面積は約 40,000 m² と甚大な被害となりました。



火元建物がある通り。前面道路幅員約 7.5m あり、風向きに直角方向にある道路反対側への延焼はなかった



火元建物から 5 件風下側にある延焼を免れた住居
鉄骨造・防火構造となっている



火元建物から約 240m 風下側にあった全焼した酒造会社

参考事例見学会

平成 29 年 1 月 21 日（土）に、「京島地区での防災に活かせる新たな井戸」の整備イメージやしつらえに参考となる事例の見学会を開催しました。

見学先は、かつて流れていた水路をモチーフとした世田谷区用の賀プロムナード（いらか道）と弦巻プロムナード、及び公園内に井戸や小川等を整備した西東京市の谷戸せせらぎ公園としました。



瓦をモチーフにした用賀プロムナード



昔の水路を活用した弦巻プロムナード



小川や井戸が整備された谷戸せせらぎ公園

避難所運営ゲーム体験会（静岡県地震防災センター）

平成 30 年 3 月 3 日（土）に、静岡県地震防災センターにおいて静岡県が開発した「避難所運営ゲーム」の体験会に参加しました。

「避難所運営ゲーム」体験会では、災害時要援護者への配慮をしながら部屋割りを考え、また炊き出し場や仮設トイレの配置などの生活空間の確保、視察や取材対応といった出来事に対して、思いのままに意見を出しあったりする体験型ゲームとなっており、どこに避難者を収容するのか話し合ったりしながら避難所運営の問題点や考慮すべき事柄等を学ぶことができました。



次から次へとやって来る避難者をどこに収容するか意見を出し合いました



ゲーム終了後、判断が難しかった事柄についてグループで話し合いました



判断が難しかった事項について、他のグループの対応を聞きました

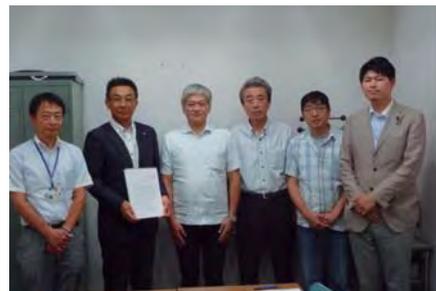
墨田区へ検討報告書の提出

京島井戸端会議で検討してきた「防災設備の維持管理方法」「各町会の提案による雨水ポンプ（一体）、広場・緑地の愛称名の提案」「新たな防災井戸に取入れたい設えや全体イメージ案」を整理し、検討報告書を作成しました。

平成 29 年 6 月 29 日（木）に協議会を代表して阿部会長、金谷水活用勉強会座長、町山副座長、佐藤篤委員が墨田区へ検討報告書を提出し、新たな防災井戸整備の検討を依頼しました。

検討報告書を受け取った墨田区都市計画部の渡辺部長からは、「積年の活動成果や、他地区の視察を踏まえた検討などは、地域力の高い京島地区ならではのものであり、一緒に安全安心な街をつくっていききたい。」とのお話がありました。

平成 29 年度は町会において検討された愛称名看板の設置や環境維持に向けた緑化活動を行いました。



墨田区への3つの提案

1. 広場・緑地、雨水貯水槽（手押しポンプ）の愛称名

京島地区内で共通認識できる広場・緑地、雨水貯水槽（手押しポンプ）の愛称名を付け、愛称名看板を設置するとともに「安全・安心防災マップ」や「京島地区まちづくりニュース」などを活用して広く周知を求めたい。

2. 防災設備の維持管理・周知に向けた取組み項目

災害時に防災設備を最大限活用するため、防災設備の維持管理および使用方法や設置場所の周知に向けた取組みを実施する。

3. 新たな防災井戸整備のアイデア・イメージ

災害時の水源確保だけでなく平時の水景や京島地区の新たなシンボルとなるような防災井戸の整備を目指し、防災井戸整備のアイデアや京島らしさを表すイメージを提示した。

京島らしさを表すイメージ

金魚

明治から大正にかけ、低湿地でため池の多かった京島では金魚養殖が盛んに行われていた。



町工場

関東大震災後、大規模工場の移転に伴い多くの町工場が起業され、現在も京島を彩る一風景となっている。



植栽

江戸時代から明治時代まで京島は低湿地の農地であり、現在も住民によるプランターなどによる緑化が盛んである。

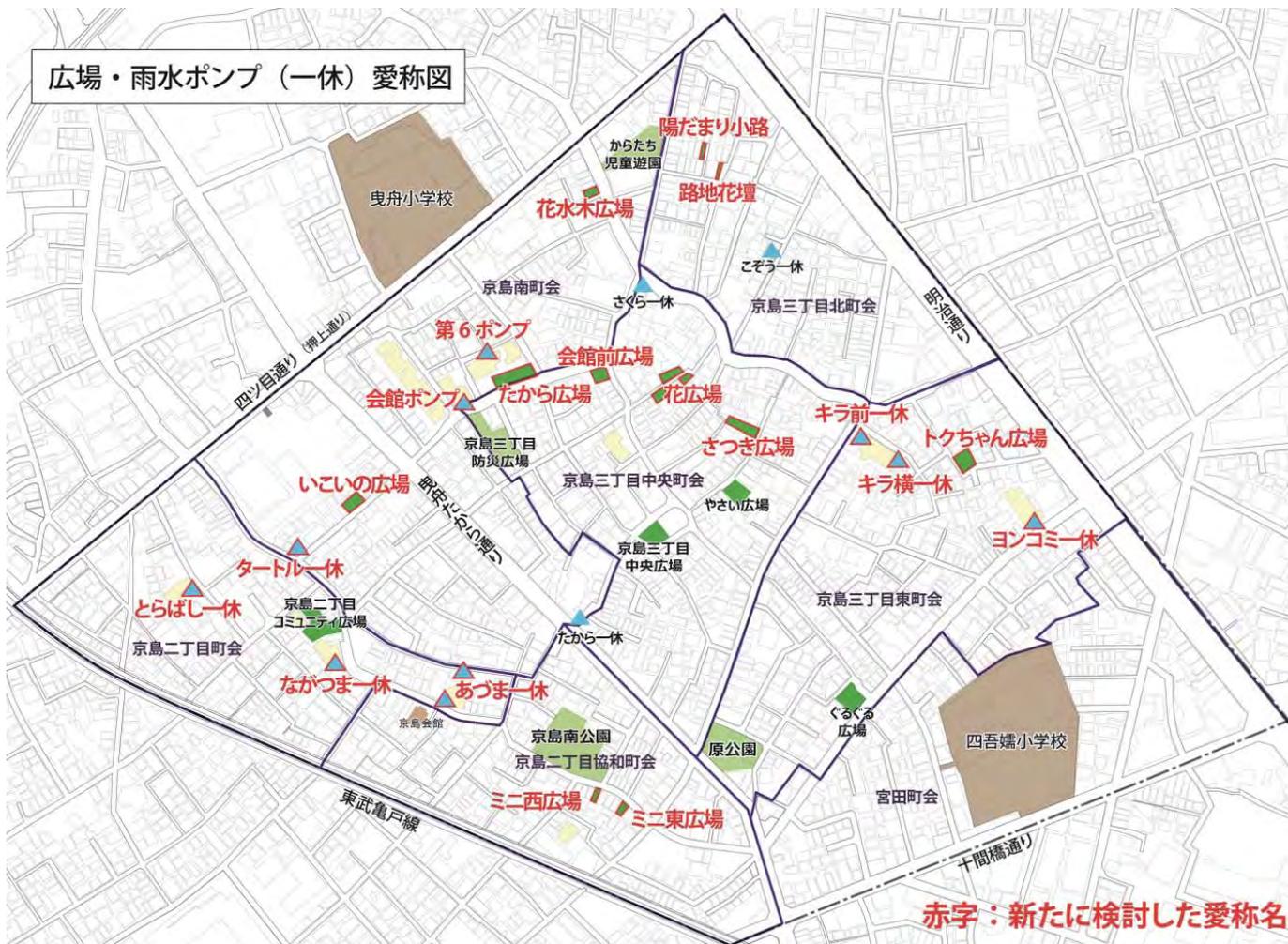


広場・一休への愛称名看板の設置

水活用勉強会にて「災害時には京島地区内で共通認識する愛称名があった方が良い。」との意見を受け、町会にて広場・緑地、雨水貯水槽（手押しポンプ）に愛称名を検討しました。

検討にあたり、原則として広場・緑地は「〇〇広場」、雨水貯水槽は「〇〇一休」と付けることとしました。

また、付けられた愛称名を広く周知していくため、愛称名看板を平成30年3月に設置しました。



地域のルールづくり 緑地空間等の維持管理ルールづくり

墨田区へ提出した「水活用勉強会検討報告書」では、平時の雨水貯水槽（一休）の維持管理・周知に向けた取組みの一つとして、憩いの場として花壇やプランターの設置並びに環境維持のためのごみ拾い等を掲げています。

そこで、京島地区では墨田区の「まちなか緑化事業」を活用し、地区内に花壇やプランターを設置して植栽の維持管理を行うこととしました。

雨水貯水槽（手押しポンプ）の維持管理の取組み（水活用勉強会報告書より抜粋）

②雨水貯水槽（手押しポンプ）

- 手押しポンプの性能維持のため、定期的に水出しを呼びかける看板等の設置や定期的に故障等がないか点検をする。
- 簡易消火機材が雨水貯水槽（手押しポンプ）接続可能なことを京島まちづくり便りで周知し、手押しポンプには蛇口ニップルを設置する。
- 雨水貯水槽の愛称の〇〇一休に相応しい、休憩できるイスや花壇の花植えやプランターを設置する。
- 憩いの場の環境維持のため、一休内のゴミ拾いを行う。

まちなか緑化事業を実施した一休、広場・緑地



情報発信

京島まちづくりニュース・京島まちづくり便りの発行

「京島地区まちづくり協議会」の活動状況やまちづくりの進捗状況等を広く住民へお知らせするため「京島まちづくりニュース」を年1回、「京島まちづくり便り」を年3回発行しています。

京島まちづくりニュースの発行（年1回）

「京島地区まちづくり協議会」の1年間の活動報告や昭和56年に策定した「京島地区まちづくり計画（大枠）」の進捗状況をお知らせする「京島まちづくりニュース」を年1回発行しています。

権利者の皆様にご協力いただき、平成28年9月に曳舟たから通りに繋がる幅員8mの「コの字型」道路「10号、11号、12号（仮称）」が全線完成しました。平成29年度も引き続き、優先整備道路の整備整備、建物の耐震化並びに防火・防災に向けた協議会活動を行い、燃えにくいまちづくりを一層推進していきます。

まちづくりデータ

- 1 まちづくり事業用地の取得 (平成28年度末現在) 取得面積約13,844㎡
- 2 道路拡幅整備 (平成28年度末現在) 11号~9m道路拡幅整備 延長 約713m 24m道路拡幅整備 145箇所 延長 約1,726m
- 3 コミュニティ住宅 (平成27年度末現在) 住宅 17棟 173戸 店舗・事務所 2箇所 57㎡
- 4 その他 20箇所 (うちテナント19箇所) 1) 緑地整備 14箇所 166㎡ 2) 雨水貯水機 14箇所 166㎡ 3) 防災関連施設 3箇所

●京島三丁目第1号のり場 (京島三丁目31番)
●京島事務所 (京島会館1階) (京島三丁目15番5号)
●京島三丁目第1号のり場 (京島三丁目6番)
●雨水ポンプ (モニター棟) (京島三丁目15番)
●京島三丁目38番から見た11号線
●京島三丁目28番から見た11号線

京島まちづくり便りの発行

「京島地区まちづくり協議会」の活動状況を、随時住民へお知らせするため「京島まちづくり便り」を年3回、全戸ポスティングを行っています。

平成29年1月12日(土)に、京島地区まちづくり協議会の常務委員、吉野副会長、水活用勉強会の各委員と協議会事務局は、魚川地区と隣の鹿野町で発生した「魚川市駅北大火(駅南側)」の被災状況を視察しました。平成28年12月22日(土)に「大型ごみ」の押し入れが溢れ出し、火災原因となり、火の勢が凄まじく最大瞬間風速27.3m/sの風によって燃焼した場所が飛びました。原因の調査に当たったことで被害が拡大していきます。焼損面積147棟(焼損109棟、半壊5棟、倒壊2棟)、焼失面積は約45,000㎡以上の大きな被害となりました。被害状況を把握するために、京島地区まちづくり協議会が「燃えにくいまちづくり」をより一層推進しなければと再認識しました。

水活用勉強会(京島村戸組会議)の進捗状況

●専断事例見学会開催
平成29年1月21日(土)に、水活用勉強会で検討している「京島地区での防犯に活かせる新たな水利用」の勉強会「イメージマップ」をテーマとした見学会を開催しました。見学会は、かつて進んでいた水活用イメージマップ(仮称「1号」)と仮称「2号」のイメージマップをテーマとし、京島地区の現状や課題を共有し、意見交換を行いました。また、視察を兼ねて鹿野町内の豊かな水を取り入れている防災水や水質浄化施設も視察しました。見学会、参加者から新たな水利用のイメージや取組についてアンケートを実施しました。

●第4回京島井戸調査会
平成29年2月16日(土)に、第4回京島井戸調査会を開催しました。本日は、水活用勉強会でのアンケートをもとに「新たな防災水利用のアイデア、イメージマップ」をテーマにしました。これまで検討してきた「防災設備の維持管理方法」や「各町会の集まる雨水ポンプ」(仮称「広域集約型の施設」)「新たな防災水利用」を取り入れた1号と2号のイメージマップを整理し、3~6月の勉強会の進捗や京島地区まちづくり協議会での取組を報告した。鹿野町へ協議会からの報告書として提出する予定です。

【開催概要】
○第4回日
日時：平成29年2月16日(土) 午後7時~午後8時30分
場所：京島事務所 会議室
議題：1. 魚川市駅北大火の被災状況報告
2. 第3回勉強会までの検討事項
3. 雨水貯水機(ポンプ)、給水・広域の集約による集約
4. 雨水貯水機の水質管理の取組
5. 雨水貯水機の水質としての活用
6. 雨水貯水機の水質としての活用
7. 雨水貯水機の水質としての活用

魚川小児科病地に雨水貯水機が整備されました

魚川小児科病院敷地(鹿野2-9-18)に、新たに雨水貯水機(32㎡)が3月下旬に新設整備されました。雨水貯水機は、雨水を地下に埋設したタンクに貯め、日常的な排水の量が、災害時は防災水として使用できます。

水活用勉強会各委員が「新消防フォーラム2017」で魚川市駅北大火視察を報告

平成29年2月18日(土)に、鹿野町消防団協議会が主催する「新消防フォーラム2017」(仮称「新消防フォーラム」)が開催されました。鹿野町消防団協議会からは、水活用勉強会各委員が「魚川市駅北大火」の被災状況を報告しました。報告は、魚川市駅北大火が原因となった「燃えにくいまちづくり」の方針に関する議論があり、京島地区まちづくり協議会から水活用勉強会の各委員が、住民の立場から見た魚川市駅北大火の被災報告を行いました。

防火性・排水性マップを各町会へ配布しました

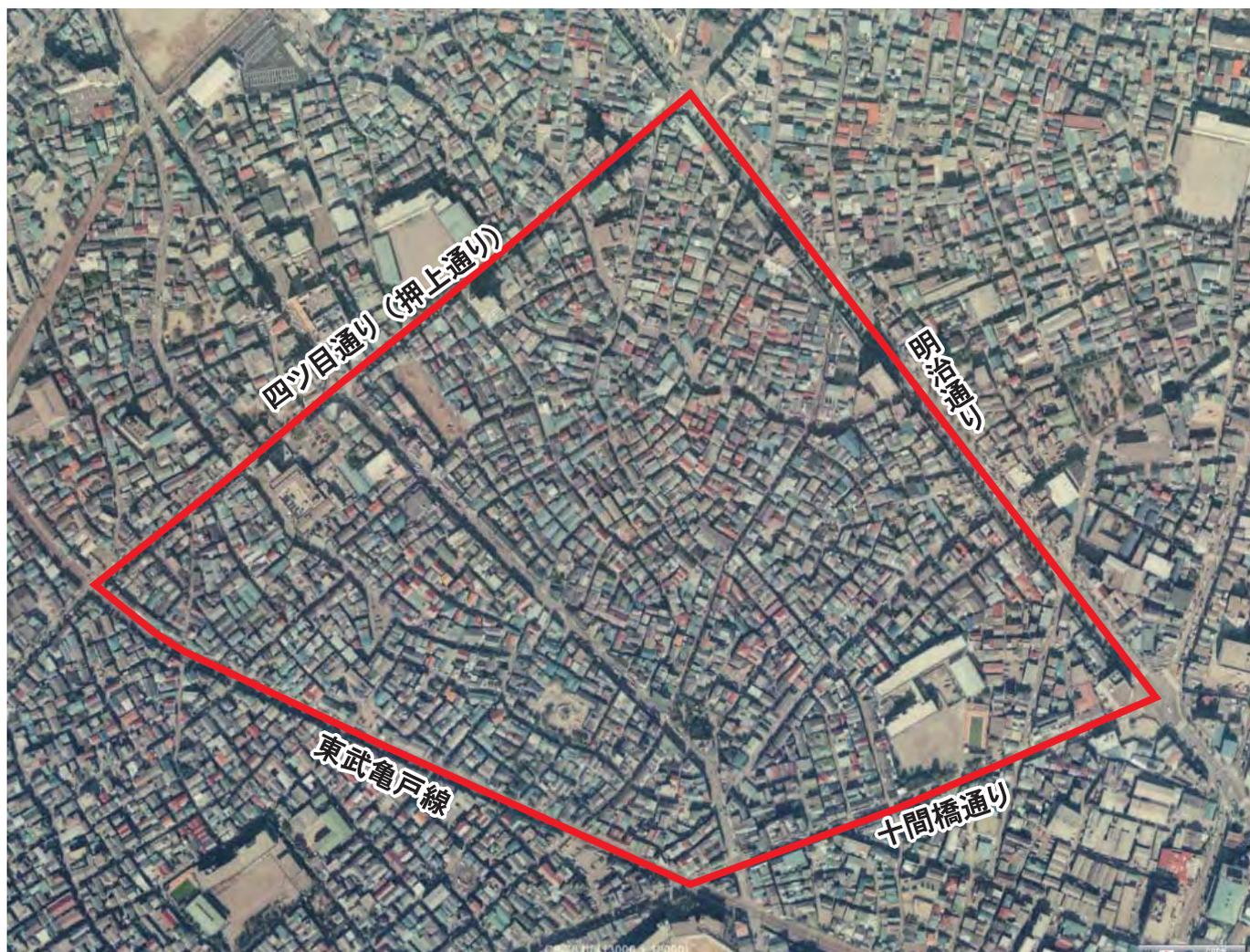
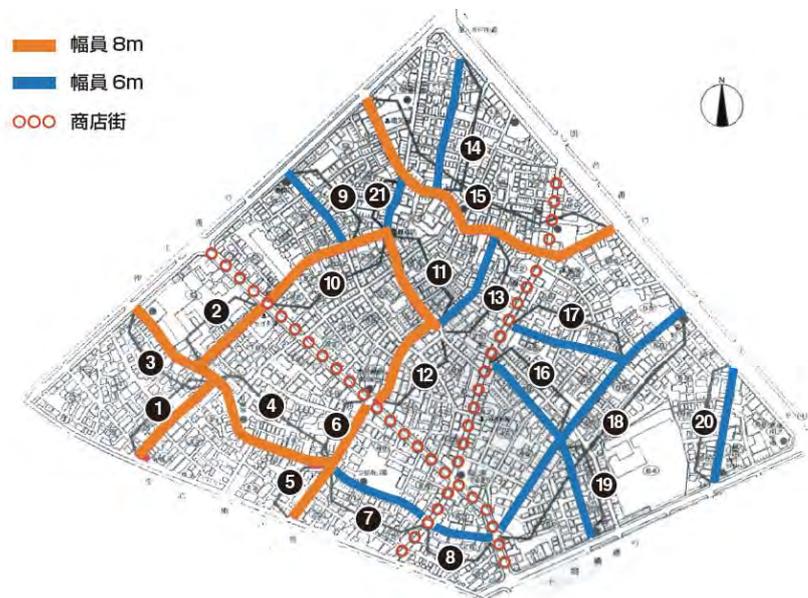
水活用勉強会が防火設備の維持管理をすすめていく中で、京島2・3丁目地区内に8ヶ所ある「雨水貯水機」が火災時にスタンバイを確保して防災活動ができることが重要です。そこで水活用勉強会の委員より「スタンバイマップ」に防火性と排水性のみの記載された防災マップがあった方がよい、という提案があり、防火性・排水性マップを作成することになりました。作成したマップは各町会に配布し、スタンバイマップに添付して配布しています。また、平成29年度には「防火・防災マップ」の更新も予定しており、更新の際には水質を把握し、情報に反映する予定です。

公共施設・公共空間の整備

墨田区は、昭和 56 年に策定した「京島地区まちづくり計画（大枠）」に基づき、安全でゆとりある歩行者空間や、緑化等環境に配慮した市街地の整備を進めています。

また「京島地区まちづくり協議会」は、墨田区より計画段階から情報を受け、建設的な意見や提案をしています。

京島地区まちづくり計画（大枠）



航空写真（昭和 59 年撮影）

道路拡幅整備



京島三丁目1番付近



京島三丁目34番付近

広場・緑地整備



京島三丁目防災広場



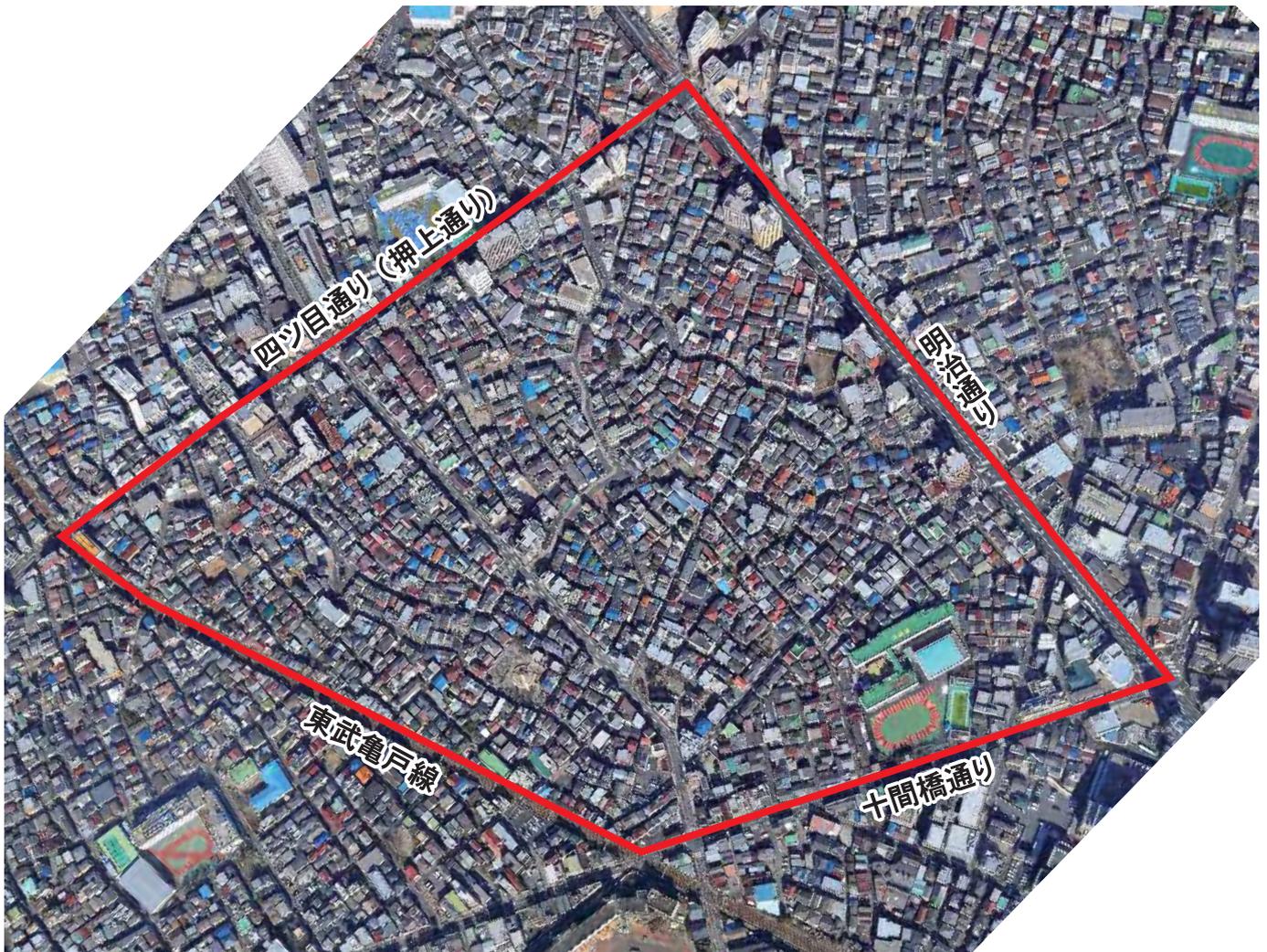
たから広場



さくら一休



こぞう一休



航空写真(平成29年2月撮影)



京島地区まちづくり協議会 事務局

一般財団法人 墨田まちづくり公社京島事務所

墨田区京島 2-15-5 京島会館 1階 ☎03-3617-2262

<http://sumida-machi.or.jp/>

京島まちづくり

検索

事務局補佐 株式会社URリンケージ